



善正寺だより

〒:512-0902

三重県四日市市

小杉町1014

浄土真宗

本願寺派

善正寺

☎:0593-31-1670

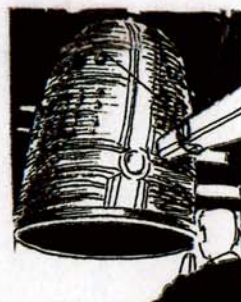
☎:0593-32-0733

掲示板法話

人生は 長さだけではない

幅もあれば 深さもある

(金子大栄師)



一年が慌しく過ぎようとしています。

今年「無縁社会」という日本社会の影の部分、地縁、血縁、職縁など人と人を結ぶ絆をなくした人が増え、親子でさえもいつどこで亡くなったかも知らず、あるいは知らずに闇から闇に消えてゆくとは、人間社会とは言えぬ無残な一面です。このような時代の闇を仏教徒として、お念仏の流れを汲む門弟として見過ごせるのか、と本願寺のご門主様が次のようなご和讃を引用されておっしゃったそうです。(神戸別院における大遠忌法要・御法話)

如来の作願をたづぬれば
苦悩の有情をすてずして
回向を首としたまひて
大悲心をば成就せり

(正像末和讃)

このご和讃は来年の親鸞聖人七百五十回大遠忌法要でお勤めの『宗祖讃仰作法・第一種』の一首目で唱和されます。「如来さまの願いをよくよくお尋ねすれば、一切衆生の苦悩を捨てておけない」というお心が根本です。衆生の苦悩

はわが苦悩だという大慈悲心の結晶がお念仏なので、どうか苦悩の闇の世を『世の中安穩なれ、仏法広まれ』と一緒に歩みましょう」と味わわれませんが、いかがでしょうか。

かつて仏教婦人会総会で、当時会長であったH.Tさんが「もったいない」という投書記事を引用して挨拶されました。

「父がガンで入院し、私たち五人姉弟は実家の弟夫婦を中心に代わる代わる付き添った。死期が近いことを悟った父が、ある朝ベッドの上で起き上がり、こう語った。『お世話になった。有難う。かゆいところに手が届くような、という諺があるが、お前たちがしてくれたいことはそれ以上だった。亡くなったお母ちゃんに会ったら、真つ先にそのことを報告しようと思う。わたしたちにはもったいない子供ばかりだったと...』。体中を電流が走った。思わず父に抱きつき私は口走った。『お父ちゃん、お母ちゃんこそ私たちにはもったいない親でした。有難うございました』(以下略)」

寿命の長短は人それぞれ。人生に幅を与えるのが血縁、地縁、職縁などで

あり、その有難さ、深さを教えてくれるのが仏さまです。親が子を「もったいない」と呼び、子が親に、亡き親にまでも「もったいない」とお礼が言える。こんな感動と喜びは宝物以上です。個人主義は細い線でもろいが、幅広さと深さに支えられた人生は苦悩を柔らかく受容され、味わいも深くなるのです。来年は、「親鸞さまの門弟でよかった」と言える一年にしたいものです。



新しいお内仏様です。

☆行事ご案内☆

12月4日(土)午後7時半 庫裡にて

「お内仏報恩講」

※粗食を用意します。皆様お誘い合わせてお参り下さい!

☆ 勤行:「西方不可思議尊」で始まるお勤め及び「宗祖讃仰作法・第三種」(音楽法要)の特別バージョン。いす席も有。(コピーを配布しますが、「正信偈」所収の聖典は持参下さい。)

♪三重組コーラス♪ 西勝寺様で午後1時半、三重組主導で新指導者体制1/18(火)、2/7(月)、3/7(月)

◇キッズサンガ

※12/31大晦日「除夜の鐘」夜11時45分より

※1/1(土)朝9時「元旦会」本堂で、お年玉付

※毎日夕方5時の鐘撞きは誰でもOK 鈴ガム付。年中無休

予告☆1/11(火)、12(水)「報恩講」(大島信隆先生)

11日午前11時よりお非事(食事接待) 11日は午後1時半と夜7時、12日は午前10時と午後1時仏婦報恩講

☆1/13、14、15、16日の連続4日間、朝7時より「お朝事」全員で正信偈をお勤めした後、法話と茶話会。

◇一縁会テレホン法話059・354・14543分間法話聞けます

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。「つれづれ日記」が好評 長男もブログに参加、3万2千回アクセス達成! 毎日50~60訪問に感謝! HPからのメール、悩み相談など歓迎! 拍手欄より一言メッセージをどうぞ、私達の大きな励みになります。

住職と坊守の2冊目共著本「虫の眼鳥の眼仏の眼」(千円)

- 平成23年度善正寺主な行事予定
- ※1/1(土) 午前9時「元旦会」
- ※1/11(火) 12(水) 「報恩講」(大島信隆先生)
- ※3/5(土) 6(日)
- 「永代経」(石川欣也先生)
- ※4/3(日) 長男潤爾結婚式
- ※5/22(日) 総会・公開法座 (藤大慶先生)
- ※8/20(土) 21(日) 「永代経」(足利孝之先生)
- ※9/18(日) 小杉仏教会主催 「追悼法要」(貴島信行先生)
- ※10/15(土) 親鸞聖人750回大遠忌法要本山参拝バス一台50名
- ※12/3(土)夜:お内仏報恩講

坊守スケッチ

「丁度よい」と思うとき道が開ける

石川県の大谷派の坊守・藤場美津路さんが『丁度よい』という詩を作られた。良寛作として間違つて土産物店で売られているが、先日中外日報に掲載されていたので紹介する。

『丁度よい』 お前はお前で丁度よい顔も体も名前も姓も お前にそれは丁度よい 貧も富も親も子も 息子の嫁もその孫も それはお前に丁度よい 幸も不幸も喜びも 悲しみさえも丁度よい 歩いたお前の人生は悪くもなければ良くもない お前にとつて丁度よい 地獄へ行こうと極楽へ行こうと 行ったところが丁度よい うぬぼれる要もなく 卑下する要もない 上もなければ下もない死ぬ月日さえも丁度よい 仏様と二人連れの人生 丁度よくないはずがない 丁度よいと聞こえた時 憶念の信が生まれます 南無阿彌陀仏

藤場さんは石川県のダムの建設で湖底に沈んだ村の出身。終戦後から昭和五十三年まで教員生活を送られた。寺に嫁いで教員をしていた三十年間は、自分を知識人と思ひ込み、自分勝手な生き方をして、仏縁を結ぶことが難しかったそうだ。その頃作つた詩に次のような本音で語る詩がある。『我執のつぶやき』(一部省略) 親ほどうつつうしい者はいない 兄



弟ほどめんどうな者はいない 子供ほどやかいな者はいない 夫ほど平凡で薄情な者はいない 姑ほど邪魔な者はいない だから離れ 軽蔑し 嫌い 反発した 先生と宗教家ほど偽善的な者はいない だから信じるのができなかつた 大嫌いな者は自分自身 愛そうとして愛しきれず 信じようとして信じきれず ただ一人孤独の淵を のたうち回る 「こんな人間は生きていく価値がないと思つた。それは真つ暗な地獄をはいずり回っている気持ちだつた。どうにでもなれ、なるようになれ、斜に構えたややくそ人生。死ぬに死なれず、生きるに生きられない気持ちだつた」と語る。しかし藤場さんは、ある先生のご法話を聞いてから、孤独な人生が転換し、高いところにいた自分が下に降りた。仏様の教えが素直に聞けるようになり、心が落ち着き、寺の中に自分の居場所を見つけた。仏様に導かれて安心して歩める人生を見つけた喜び、腹が据わつた人生というべきではないか?

藤場さんはこの他にも寺報『法友』を昭和五十六年から毎月発行し続け、三百六十号を迎えるそうだ。わが善正寺だよりはまだ二〇四号で足元にも及ばないが、大先輩の坊守さんを目標

に励みたいと思う。このように何事も「丁度よい」と思える時、我執から解き放たれた、広い世界への道が開けて、気持ちが楽になる。大いなるものに自分を任せ、それに向かつて一歩一歩力強く歩む人生を送りたいと思う。

☆寄稿

四日市市川崎孝一

☆里芋の 時季彼の炎暑 子は未熟 晩夏に熟れし 孫美味なり

☆吾がカーを ボタンで止めて 渡る兎に 曳かれるチワワ

夏ばて模様

☆二三輪 寄りて咲く花 萎れても 繋がりが落ちる オーシャンブルー

☆西勝寺様で午後1時半1/18(火) 2/7(月)3/7(月)新指導者で練習

キッズサンガ・杉の子合唱団

◇12月31日夜11時45分除夜の鐘

◇元旦会朝9時本堂で正信偈お年玉付

新年のスタートは家族揃つて参拝。

夕方5時の鐘撞きは毎日。ガム・飴

☆カンパ有難う☆

芝田きよ様・匿名様よりお志・切手有難うございました。

☆ホットニュース☆

☆10/30夜三重組コーラス、善正寺での最後の「感謝の集い」。花束と記念品を頂戴し有難うございました。

コーラスを「縁に出会った人々の8年間の思い出は、私の生涯の宝物!

☆10/31長男潤爾の結納が納まりました。お相手は松阪市在住で在家の二十七才。挙式は来年4月3日(本堂で午前十一時仏前結婚式・午後一時都ホテルで披露宴)

◇11/6世話方会議で、門信徒さん向けの披露宴は、挙式当日の夕方から世話方さん、行事さんのお世話で、本堂で開催されることが決定。詳細は決まり次第お知らせします。

☆善正寺のホームページ「三重 善正寺」で検索可。毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」が好評。長男も若い感覚でブログ投稿。開設2年4か月で3万3千回以上アクセス!

☆住職と坊守の2冊目の共著本『鳥の眼・虫の眼・仏の眼』(自照社刊)好評発売中!挿絵は門徒の服部雅之氏(定価1260円)を著書割引千円で特別販売) お悔やみ申し上げます

☆安田政子様(10月26日亡・92歳・小杉1丁目) 合掌

☆編集子より ☆

「善正寺だより」第二〇四号をお届けします。◇長く暑い夏の後、秋らしい秋が短く、あつという間に一年が終わりを告げようとしています。◇いよいよ来春から8ヶ月にわたりご本山で親鸞聖人七五〇回大遠忌法要が勤まります。「世の中安穏なれ、仏法広まれかし」との願いに少しでも応えるよう努めたい。◇一年間ご愛読有難うございました。どうぞよき新年をお迎え下さい。合掌

いよいよ師走、時の流れの速さに驚きます。この一年を振り返りて私にとつては心の区切りをつける年でもあり、新しい出会いの年でもありました。三重組コーラス8年間の活動は私を大きく成長させて下さいました。実母を介護し母を見送った後の淋しさを埋めつくすに充分な手応えがありました。それ以上に皆様と出会い喜びを共有できたことが私の生涯忘れることのできない宝物となりました。この一生は30年毎に大きな節目があるしとスコレ家庭教育会長の永池洋吉氏は言います。第二期は誕生から結婚、第三期は家庭を築き働き子供が巣立つまで、第三期は孫世代も含む老後の人生。この節目毎に自分の生き方を見直し、心と体のバランス、精神的なものと物質的なもの、バランスのとれた生活を目指すように心掛けることの大事だと説かれていいます。従来の冠婚葬祭の場を通して、家族の絆、地域の絆を伝えることこそ若者も育てる最後のチャンスではないでしょうか。容易にお金と労力を済ますのではなく手間と暇を惜しまず努力することこそ「絆再生」につながります。先日の世話方会議「若さんの一世一代のことならワシら若さんでお手伝いさせてもらおう、世話方も行事も統動員で一人でも多くの人に祝ってもらおう為には本堂でしようやないかし」と有難いお言葉を残されました。この心の絆は私達二代で築いたものではなく、祖先から守り伝えられたものです。若い二人にも皆林のお育てよろしくお願ひします。

平成二十二年十二月

合掌 善正寺方守輝